



CONTENTS

- 巻頭言 …P.1
- 現地活動報告
フィリピン …P.2
特集「夏休みの活動」
- 支援で育つ子どもたち …P.4
- スポンサーの広場 …P.6
- 日本事務局から報告・お知らせ …P.7
総会公告
「スポンサーの広場」原稿募集…P.8

■ 苦難をともにする

聖書に出てくる、聖霊ということばがある。父なる神、子なる神、聖霊なる神という三位一体の神の第三位格を指すことばであるが、別に、慰め主、助け主などとも呼ばれる。ある英語の訳では、ザ・コンフォーター (the comforter) となっている。

この英語、コン (com) という接頭語は、「共に」という意味、共同社会は、コミュニティというが、そういうイメージのあることばである。フォートは「戦う」という意味。そういえば、フォートアラモ (アラモの要塞) ということばもあった。

だから、一般には、慰め主、助け主と訳されているが、どうも訳としては弱いような気がする。本来、コンフォーターが意味するのは、共に戦ってくださるお方ということだろう。聖霊は、この世の社会に揉まれて傷ついた人々が教会にやってくると「ああ、かわいそうに」と頭をなでてくれる、そういうお方ではなく、もっと積極的に共に戦ってくださるお方である、というわけだ。

そういう意味では、共に戦うという視点には学ばせられるように思う。私たちが人の力になるというの

は色々で、ある時は、人の話を聞いたり、慰めたり力づけたりする、ということもある。しかしまた、何もできないけれども、ただ共にある、ということで助けになることもあるだろう。さらには、積極的に何かを共にして、苦難を一緒に戦っていくということもある。

いずれにしても、人間というのは、自分がかわいくて、自分が損になるようなことはしたくないし、共に戦うという心構えにはならないことがある。けれども、共に苦難を分かち合いながら何かを乗り越えたという共有経験は大きい。単に人を助けたという以上に、共に何かを乗り越えていく、そんな経験で、私たちの人生を飾ってみるというのはどうだろうか。

(HFI 代表 福井 誠)

